

2024年3月期 第3四半期決算概況資料

2024年2月6日

九州旅客鉄道株式会社

目次

I	2024年3月期 第3四半期決算実績	4
II	2024年3月期 通期業績予想及び配当予想	8
III	セグメントの状況	13
IV	中期経営計画の取り組み状況	22

概要

24.3期 第3四半期 決算実績

- 各セグメントにおける需要の回復等により、対前年で連結営業収益、営業利益、経常利益、四半期純利益すべて増収・増益

24.3期 通期業績予想 及び配当予想

- 通期業績予想に対して3Qの業績は順調に進捗
- 連結業績予想は、11月7日公表の予想を据え置き
- 配当予想は、1株あたり年間配当金93円（期末配当のみ）を据え置き

セグメントの状況

- 鉄道事業の収入は、2Qから回復率が上昇
- ホテル事業におけるADR・稼働率は、2Qから上昇
- 流通・外食事業における店舗売上は引き続き好調

中期経営計画 の取組状況

- 国内初となるGOA2.5自動運転を2024年3月より開始予定
- 鉄道事業においてQRコードを活用したチケットレスサービスの導入を決定
- 嬉野八十八が10月1日、新長崎駅ビルが11月10日に開業、福岡エリアの開発も進展

I 2024年3月期 第3四半期決算実績

2024年3月期 第3四半期連結決算ハイライト

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	2,612	2,929	316	112.1%
営業利益	225	431	206	191.7%
経常利益	235	448	212	190.5%
特別損益	27	67	39	246.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	215	407	191	189.1%
EBITDA ^(※)	442	671	228	151.7%

※EBITDA=営業利益+減価償却費（転貸を目的としたリース資産に係る減価償却費除く）以下、全て同様です。

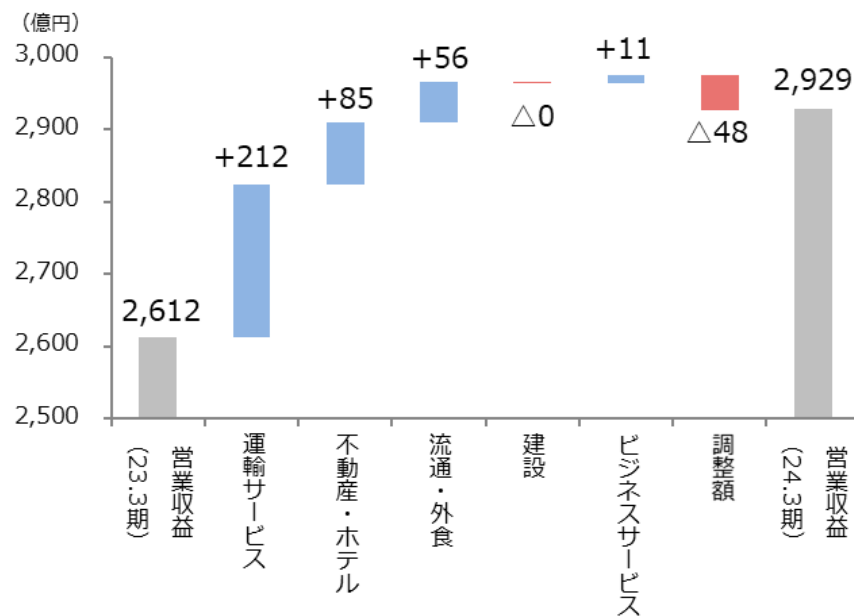
営業収益・利益

保有物件の売却の減はあったものの、各事業における需要の回復等により増収増益

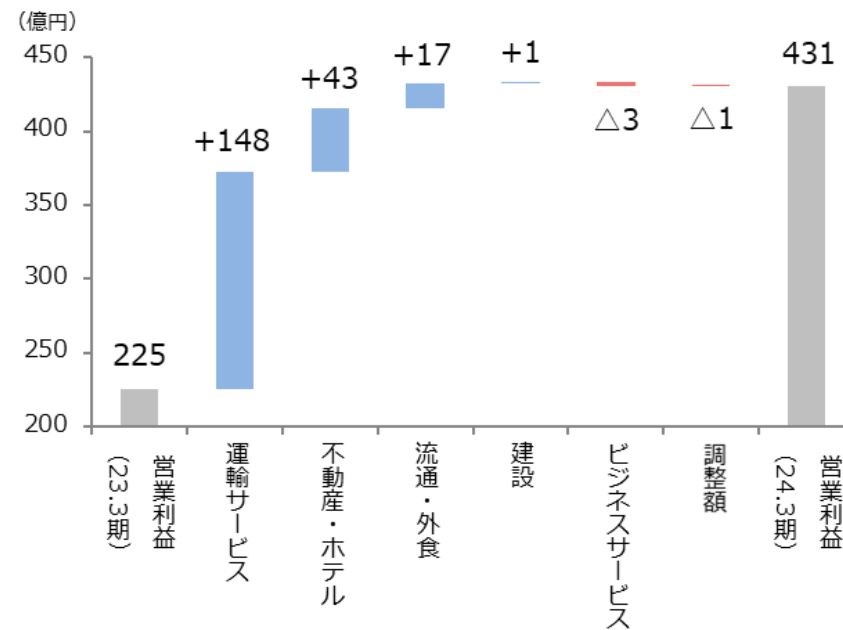
特別損益

ドラッグイレブン株式の売却益等により増

セグメント別営業収益



セグメント別営業利益



2024年3月期 第3四半期連結決算実績（セグメント別）

（単位：億円）

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
営業収益	2,612	2,929	316	112.1%	
運輸サービス	1,009	1,222	212	121.1%	
単体・鉄道事業	999	1,200	201	120.1%	需要の緩やかな回復による増
不動産・ホテル	747	832	85	111.4%	
不動産賃貸	462	512	49	110.7%	需要の回復による賃貸収入の増
不動産販売	164	137	△ 27	83.3%	保有物件の売却の減
ホテル事業	119	182	63	152.9%	需要の回復による増
流通・外食	402	458	56	113.9%	需要の回復による増
建設	568	568	△ 0	99.9%	
ビジネスサービス	519	531	11	102.1%	
営業利益	225	431	206	191.7%	
運輸サービス	43	191	148	438.2%	
単体・鉄道事業	50	195	144	387.8%	
不動産・ホテル	132	176	43	133.1%	
不動産賃貸	116	127	10	109.2%	
不動産販売	9	15	5	158.8%	
ホテル事業	6	34	27	515.9%	
流通・外食	10	28	17	266.3%	
建設	10	12	1	115.6%	
ビジネスサービス	29	26	△ 3	89.0%	
EBITDA	442	671	228	151.7%	
運輸サービス	122	279	157	229.0%	
単体・鉄道事業	126	280	153	220.9%	
不動産・ホテル	237	291	54	122.8%	
不動産賃貸	204	223	19	109.4%	
不動産販売	9	15	5	158.0%	
ホテル事業	23	53	29	223.8%	
流通・外食	20	37	17	186.6%	
建設	18	19	1	106.9%	
ビジネスサービス	48	48	0	100.2%	

2024年3月期 第3四半期単体決算実績

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
営業収益	1,401	1,611	210	115.0%	
鉄道旅客運輸収入	887	1,085	198	122.3%	需要の緩やかな回復
新幹線	316	432	116	136.7%	
在来線	570	652	81	114.3%	
その他収入	513	525	11	102.3%	
営業費用	1,236	1,284	48	103.9%	
人件費	301	317	15	105.3%	賞与の増
物件費	710	724	13	102.0%	
動力費	78	79	1	101.7%	
修繕費	182	185	3	101.8%	
その他	449	459	9	102.1%	
租税公課	91	93	1	102.1%	
減価償却費	132	149	16	112.4%	
営業利益	165	326	161	198.0%	
営業外損益	38	65	26	167.9%	
経常利益	203	392	188	192.3%	
特別損益	28	69	41	245.9%	ドラッグイレブン株式の売却益による増
四半期純利益	207	382	175	184.8%	

(再掲) 単体事業別

(単位：億円)

		2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
鉄道事業	営業収益	999	1,200	201	120.1%
	営業利益	50	195	144	387.8%
関連事業	営業収益	401	410	8	102.2%
	営業利益	114	131	16	114.7%

Ⅱ 2024年3月期 通期業績予想及び配当予想

2024年3月期 通期連結業績予想ハイライト

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	3,832	4,170	337	108.8%
営業利益	343	457	113	133.1%
経常利益	357	459	101	128.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	311	407	95	130.6%
EBITDA	638	783	144	122.6%

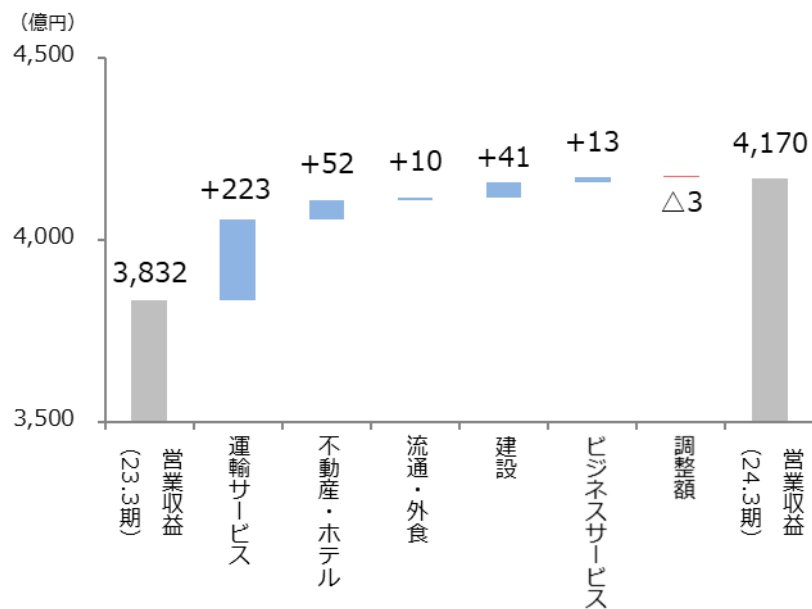
営業収益

保有物件の売却の減少を見込むも、各セグメントにおける需要の緩やかな回復や長崎駅周辺開発の開業等により増収

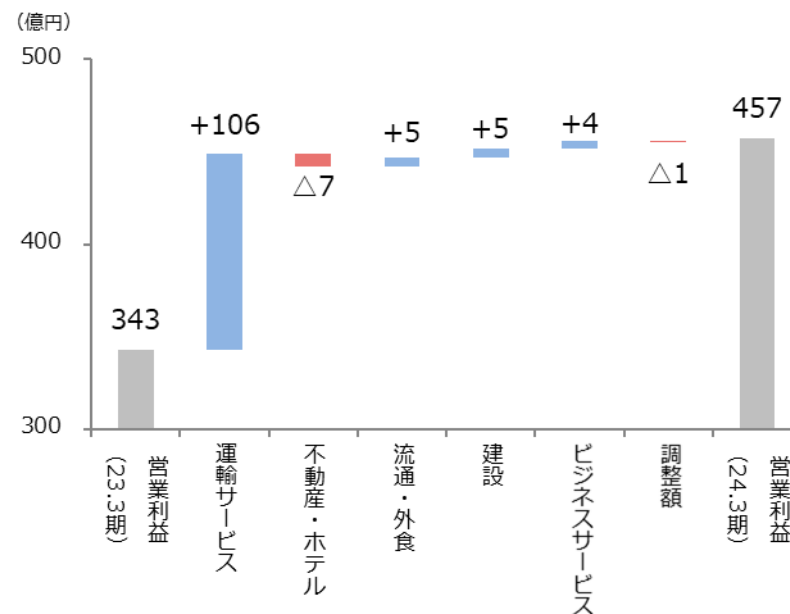
営業利益

鉄道事業における動力費の増や、長崎駅周辺開発に伴う開業費等を見込むも、営業収益の増により増益

セグメント別営業収益



セグメント別営業利益



2024年3月期 セグメント別通期業績予想

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年		主な増減理由
営業収益	3,832	4,170	337	108.8%	
運輸サービス	1,383	1,607	223	116.2%	需要の緩やかな回復による増
単体・鉄道事業	1,365	1,569	203	114.9%	
不動産・ホテル	1,231	1,284	52	104.3%	
不動産賃貸	626	687	60	109.7%	需要の緩やかな回復や新長崎駅ビル等の開業による賃貸収入の増
不動産販売	435	387	△ 48	88.8%	保有物件の売却の減
ホテル事業	169	210	40	124.2%	需要の緩やかな回復による増
流通・外食	547	558	10	101.9%	
建設	883	925	41	104.7%	
ビジネスサービス	734	748	13	101.8%	
営業利益	343	457	113	133.1%	
運輸サービス	25	132	106	523.2%	
単体・鉄道事業	31	133	101	422.7%	
不動産・ホテル	221	214	△ 7	96.8%	
不動産賃貸	148	153	4	102.7%	
不動産販売	62	51	△ 11	81.6%	
ホテル事業	9	10	0	104.0%	
流通・外食	14	20	5	141.7%	
建設	54	60	5	110.2%	
ビジネスサービス	34	39	4	111.9%	
EBITDA	638	783	144	122.6%	
運輸サービス	131	254	122	193.3%	
単体・鉄道事業	135	252	116	186.4%	
不動産・ホテル	362	374	11	103.1%	
不動産賃貸	267	286	18	107.0%	
不動産販売	62	51	△ 11	81.3%	
ホテル事業	32	37	4	112.4%	
流通・外食	27	33	5	121.1%	
建設	65	71	5	109.1%	
ビジネスサービス	62	63	0	100.9%	

2024年3月期 単体通期業績予想

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年		主な増減要因
営業収益	2,116	2,286	169	108.0%	
鉄道旅客運輸収入	1,214	1,428	213	117.6%	需要の緩やかな回復による増
新幹線	440	539	98	122.4%	
在来線	774	889	114	114.9%	
その他収入	901	858	△ 43	95.2%	保有物件の売却の減
営業費用	1,887	1,971	83	104.4%	
人件費	403	410	6	101.6%	
物件費	1,189	1,226	36	103.1%	
動力費	107	124	16	115.0%	資源価格高騰による単価増
修繕費	304	325	20	106.7%	緊急抑制の反動増
その他	776	777	0	100.0%	
租税公課	115	125	9	108.3%	
減価償却費	179	210	30	116.7%	
営業利益	228	315	86	138.1%	
営業外損益	43	54	10	124.5%	
経常利益	271	369	97	135.9%	
特別損益	38	70	31	184.1%	ドラッグイレブン株式の売却益による増
当期純利益	254	368	113	144.8%	

(再掲) 単体事業別

(単位：億円)

		2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
鉄道事業	営業収益	1,365	1,569	203	114.9%
	営業利益	31	133	101	422.7%
関連事業	営業収益	750	717	△ 33	95.5%
	営業利益	196	182	△ 14	92.5%

2024年3月期 配当予想

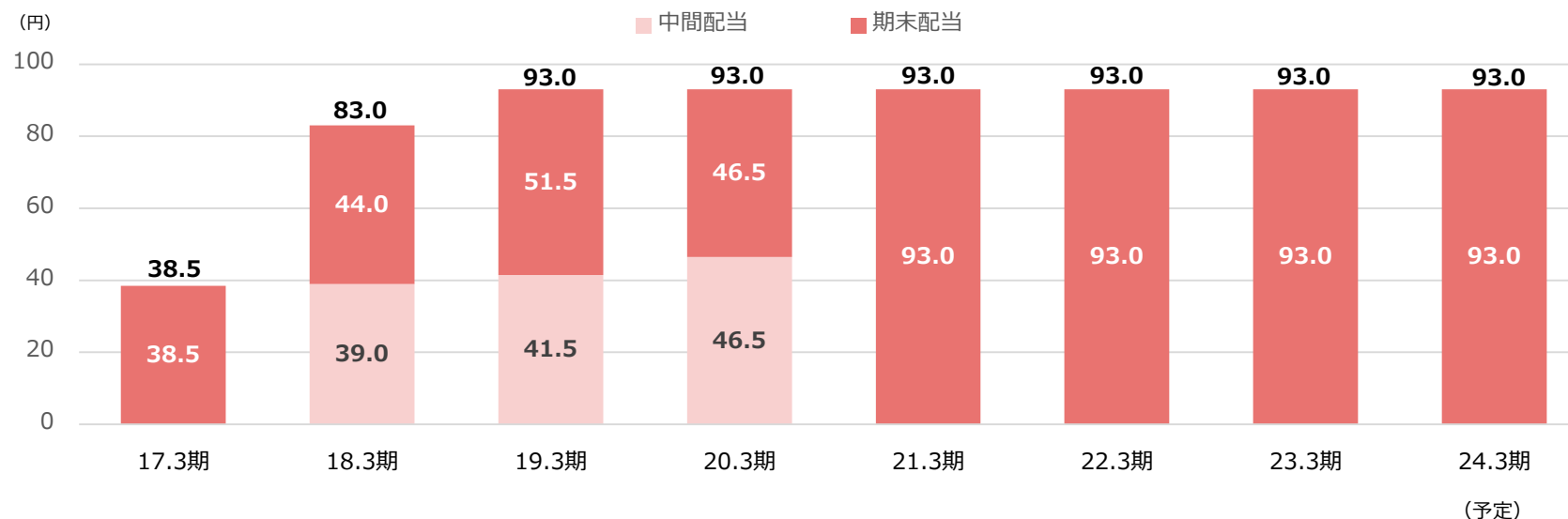
株主還元方針

- 株主還元は長期安定的に行っていくことが重要と考え、2025年3月期までの間は、**1株当たり配当金93円を下限**として、**連結配当性向35%を目安に配当**を行い、**状況に応じて機動的に自己株式取得**を行う

2024年3月期配当予想

- 上記の方針に基づき検討した結果、**2024年3月期の配当予想は、1株当たり年間配当金93円**
- なお、2023年3月期同様、2024年3月期も中間配当は行わず、期末配当の年1回とする予定

(参考) 1株当たり年間配当金の推移



配当性向	13.8%	26.3%	30.2%	46.9%	-	110.3%	46.9%	35.9%
総還元性向	13.8%	26.3%	30.2%	78.6%	-	110.3%	46.9%	35.9%

※自己株式取得 (100億円)

Ⅲ セグメントの状況

運輸サービスセグメント

● 鉄道旅客運輸収入は、全体として想定並みの水準で推移

【実績】

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	1,009	1,222	212	121.1%
うち単体・鉄道事業	999	1,200	201	120.1%
鉄道旅客運輸収入	887	1,085	198	122.3%
営業利益	43	191	148	438.2%
うち単体・鉄道事業	50	195	144	387.8%
EBITDA	122	279	157	229.0%
うち単体・鉄道事業	126	280	153	220.9%

【業績予想】

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	1,383	1,607	223	116.2%
うち単体・鉄道事業	1,365	1,569	203	114.9%
鉄道旅客運輸収入	1,214	1,428	213	117.6%
営業利益	25	132	106	523.2%
うち単体・鉄道事業	31	133	101	422.7%
EBITDA	131	254	122	193.3%
うち単体・鉄道事業	135	252	116	186.4%

主な事業の状況

- 鉄道旅客運輸収入は、定期収入、定期外収入ともに回復率が伸長し、全体としてインラインとなった

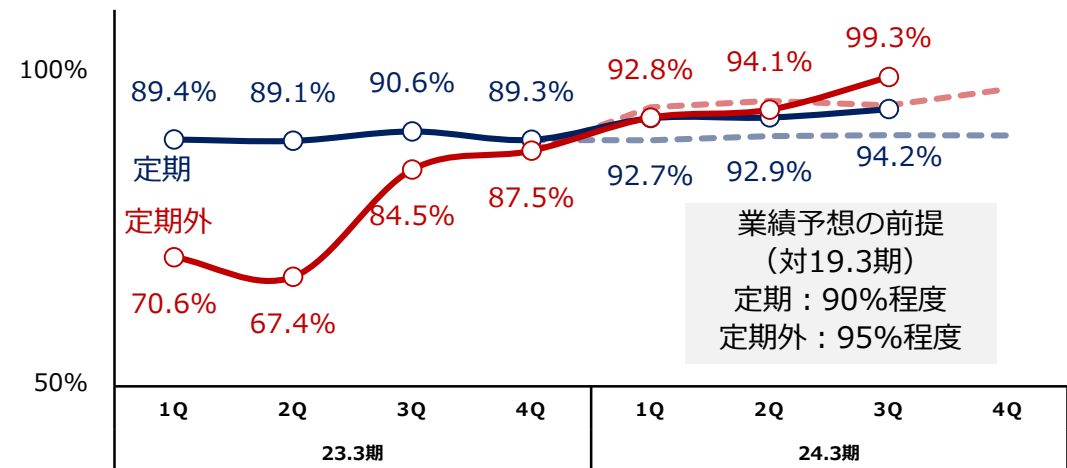
【鉄道旅客運輸収入（19.3期比）】

3Q累計実績 95.0% 年度累計想定 94.3%

- 鉄道事業の費用は、動力費が想定を下回って推移。修繕費は想定に対して進捗がやや遅れており、4Qへの期ずれが発生
- 4Qでは、コロナ禍に緊急抑制・先送りした修繕費の反動増が想定以上となることを見込む。また、経営陣と従業員との意見交換会の内容を踏まえた業務改善等に係る費用を見込む

鉄道事業 | 鉄道旅客運輸収入（対19.3期）

点線：想定
実線：実績

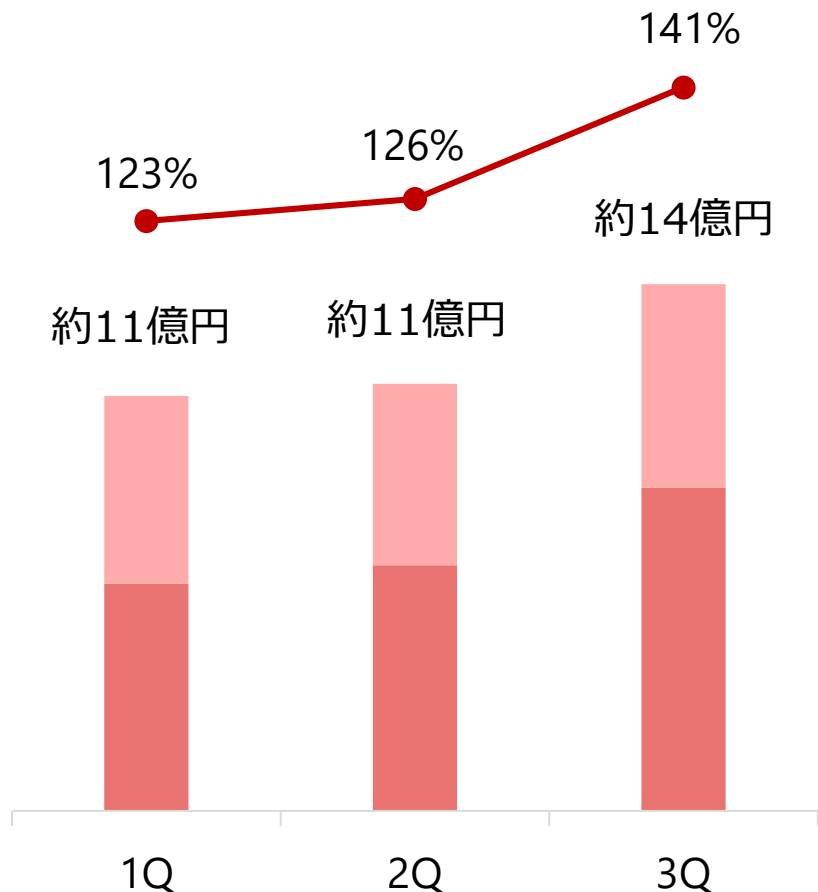


鉄道事業におけるインバウンドの状況について

- 3Qのインバウンド収入は、JR九州レールパスの価格改定の効果もあり、2Qから伸長

インバウンド収入（概算）の推移

■ JR-KYUSHU RAIL PASS ■ その他 ● 19.3期比



鉄道旅客
運輸収入に
占める割合

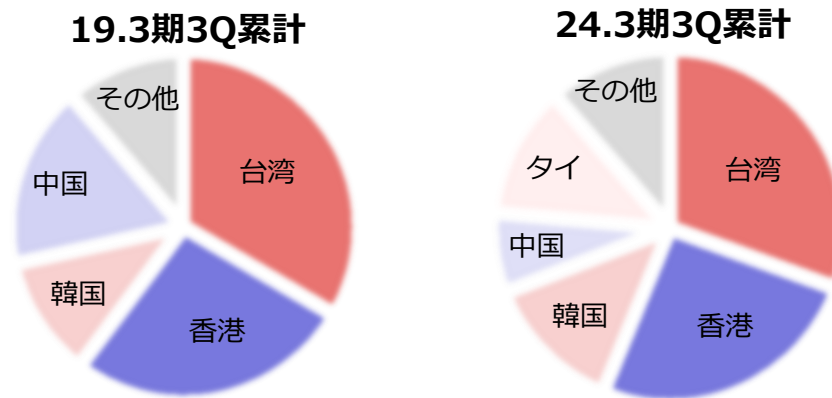
1Q 約3.3% 2Q 約3.2% 3Q 約3.7%

JR-KYUSHU RAIL PASSの需要動向

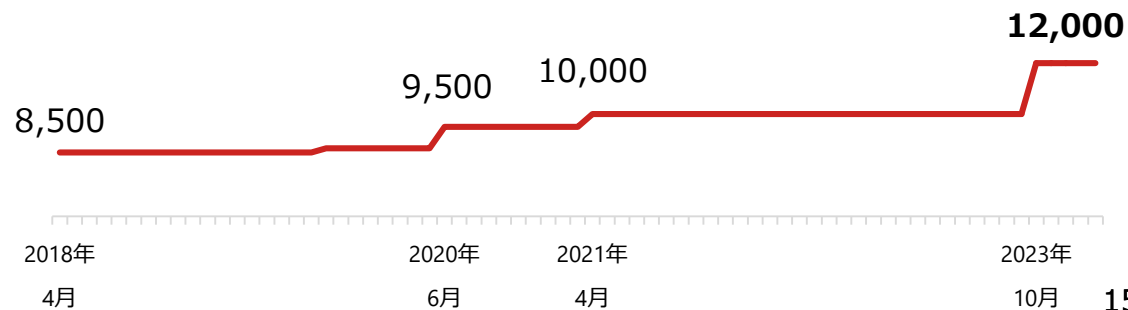
	19.3期 3Q累計	24.3期 3Q累計	
	実績	実績	19.3期比
販売数	17.7 万枚	18.8 万枚	106%
売上	16.9 億円	23.5 億円	139%
(参考) 単価*	8,500 円	~9.30 10,000 円 10.1~ 12,000 円	118% 141%

※北部九州(3日間)の金額

地域別販売先



価格の変遷（北部九州3日間）



鉄道事業（輸送データ）

鉄道旅客運輸収入

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
全社計	887	1,085	198	122.3%	
定期	222	231	8	104.0%	
定期外	664	853	189	128.5%	
荷物	0	0	0	121.6%	
新幹線	316	432	116	136.7%	
定期	20	22	2	110.3%	需要の緩やかな回復、西九州新幹線の開業
定期外	296	410	114	138.5%	
在来線	570	652	81	114.3%	
定期	202	209	6	103.3%	需要の緩やかな回復
定期外	368	443	75	120.4%	

輸送人キロ

(単位：百万人キロ)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
全社計	5,582	6,373	790	114.2%
定期	2,931	3,011	80	102.7%
定期外	2,651	3,361	710	126.8%
新幹線	1,121	1,473	351	131.3%
定期	151	166	14	109.6%
定期外	970	1,306	336	134.7%
在来線	4,460	4,900	439	109.8%
定期	2,779	2,845	65	102.4%
定期外	1,681	2,054	373	122.2%

不動産・ホテルセグメント | 不動産賃貸事業

- 駅ビルテナント売上は、主に「JR博多シティ」が牽引し、堅調に推移
- 2023年11月10日に「JR長崎駅ビル」が開業

【実績】

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	462	512	49	110.7%
営業利益	116	127	10	109.2%
EBITDA	204	223	19	109.4%

【業績予想】

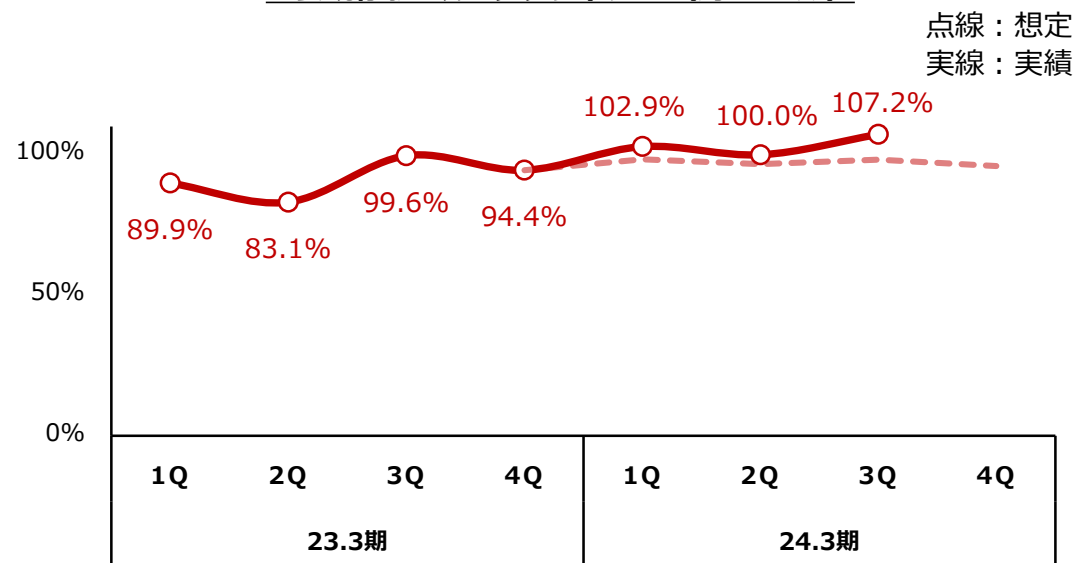
(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	626	687	60	109.7%
営業利益	148	153	4	102.7%
EBITDA	267	286	18	107.0%

主な事業の状況

- 駅ビルテナント売上高は、主に「JR博多シティ」が牽引する形で回復傾向を維持しており、インラインの状況
- オフィスビル及び賃貸マンションの空室率に大きな変化はなく堅調に推移
- 今期開業済・開業予定のオフィスビルのリーシング状況は概ね堅調
- 2023年11月10日に「JR長崎駅ビル」が開業、3Qに開業費が発生

主要既存駅ビル[※]テナント売上（対19.3期）



※博多、小倉、長崎（新駅ビル除く）、大分、鹿児島

不動産・ホテルセグメント | 不動産販売事業

- 分譲マンション販売は前年同期比で増加
- 保有物件の売却については、1Qと3Qに賃貸マンションを第三者へ売却するも、23.3期の第三者へのオフィスビル売却の反動により減収

【実績】

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	164	137	△ 27	83.3%
営業利益	9	15	5	158.8%
EBITDA	9	15	5	158.0%

【業績予想】

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	435	387	△ 48	88.8%
営業利益	62	51	△ 11	81.6%
EBITDA	62	51	△ 11	81.3%

主な事業の状況

- 分譲マンションの営業収益は23.3期に対し微増を見込む。4Qには当社初となる東京での開発物件を引き渡し予定
- 保有物件の売却については、1Qに「RJRプレシア新横浜」を、3Qに「RJRプレシア博多駅南」をそれぞれ第三者へ売却。私募REITや第三者への売却を合わせて年間100億円程度の営業収益を見込む
(23.3期実績：170億円程度)



RJRプレシア新横浜

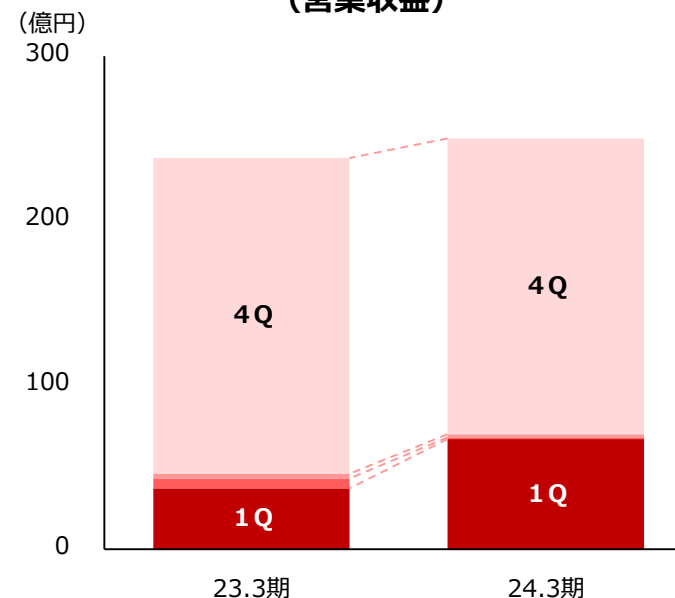
取得時期：2018年10月
所在地：横浜市港北区
構造：地上10階 地下1階建
築年月：2009年5月
総戸数：110戸



RJRプレシア博多駅南

取得時期：2019年2月
所在地：福岡市博多区
構造：地上14階建
築年月：2019年2月
総戸数：139戸

分譲マンション販売見込み (営業収益)



不動産・ホテルセグメント | ホテル事業

- 宿泊需要の更なる高まりを受け、ADRは20,000円台を突破、稼働率も2Qから上昇
- 総販売室数におけるインバウンド比率は、2Qから上昇

【実績】

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	119	182	63	152.9%
営業利益	6	34	27	515.9%
EBITDA	23	53	29	223.8%

【業績予想】

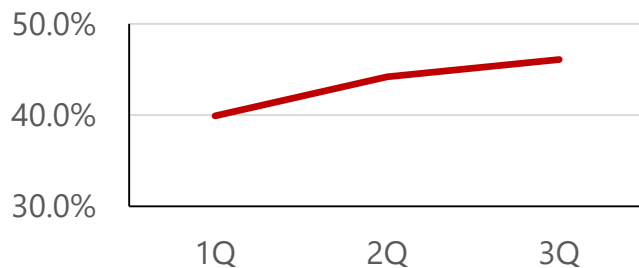
(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	169	210	40	124.2%
営業利益	9	10	0	104.0%
EBITDA	32	37	4	112.4%

主な事業の状況

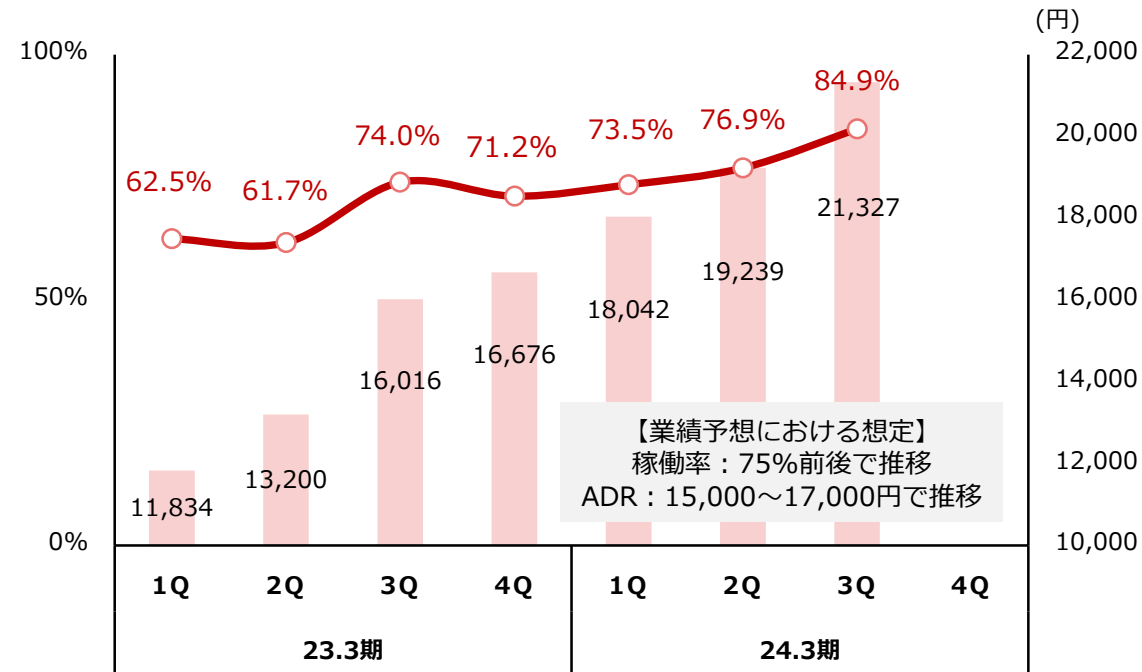
- 東京や福岡を中心としたインバウンド比率の高い施設がADRの上昇を牽引。一方で稼働率は、国内比率の高い施設も含め、全体的に上昇

インバウンド比率(総販売室数ベース)



- 2023年10月1日に「嬉野八十八」、2024年1月16日に「長崎マリオットホテル」が開業、3Qから4Qにかけて開業費を見込む

稼働率及びADR



流通・外食セグメント

- 人流回復に伴い、小売店と飲食店いずれも実績は好調に推移

【実績】

(単位：億円)

	2023年3月期	2024年3月期	対前年	
	3Q累計実績	3Q累計実績		
営業収益	402	458	56	113.9%
営業利益	10	28	17	266.3%
EBITDA	20	37	17	186.6%

【業績予想】

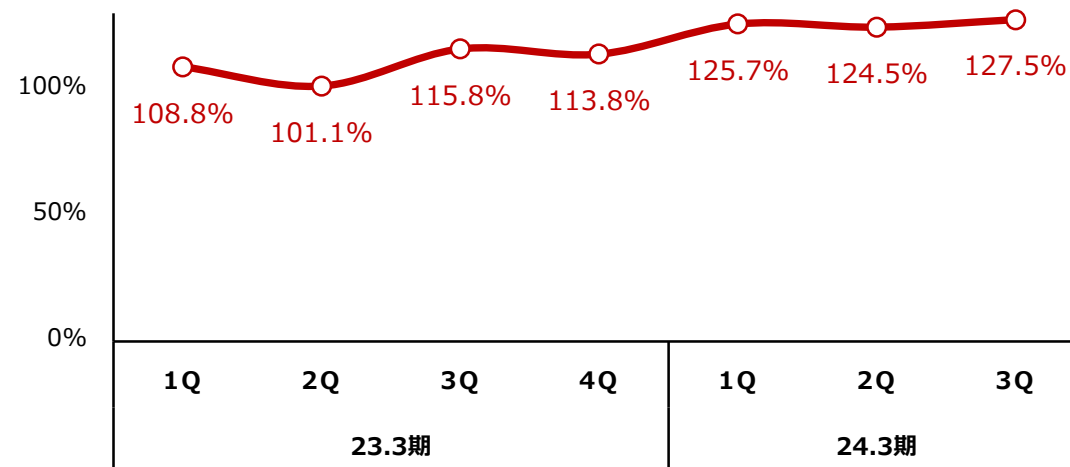
(単位：億円)

	2023年3月期	2024年3月期	対前年	
	実績	通期予想		
営業収益	547	558	10	101.9%
営業利益	14	20	5	141.7%
EBITDA	27	33	5	121.1%

主な事業の状況

- 既存店売上高は主要子会社を中心に対前年比100%超で推移
- コンビニエンスストアや居酒屋は主に客数増、ファーストフード店は主に客単価増が貢献

セグメント店舗売上高 (対19.3期)



※ドラッグイレブン（2023年5月全保有株式譲渡）、トランドール（2023年5月保有株式譲渡）の実績は除く、萬坊（2019年12月子会社化）、ヌルボン（2021年10月事業譲受）の実績は含む

建設セグメント・ビジネスサービスセグメント

建設セグメント

- 受注残は積み上がってきており、更なる受注獲得と工事の着実な遂行を目指す

【実績】

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	568	568	△ 0	99.9%
営業利益	10	12	1	115.6%
EBITDA	18	19	1	106.9%

【業績予想】

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
	883	925	41	104.7%
	54	60	5	110.2%
	65	71	5	109.1%

ビジネスサービスセグメント

- 建設資材の納入増により増収ではあるものの、建機販売の減により減益

【実績】

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	519	531	11	102.1%
営業利益	29	26	△ 3	89.0%
EBITDA	48	48	0	100.2%

【業績予想】

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
	734	748	13	101.8%
	34	39	4	111.9%
	62	63	0	100.9%

IV 中期経営計画の取り組み状況

JR九州グループ中期経営計画2022-2024

本計画期間における3つの重点戦略

成長軌道への復帰を図るステージとし、3つの重点戦略を強力に推進

事業構造改革の完遂

重点戦略①

鉄道	黒字体質の安定化
ホテル	既存ホテルの競争力向上
流通・外食	ブランド/店舗の競争力向上
建設	グループ内から外へ主戦場を転換

長期ビジョン実現に向けた重点戦略

重点戦略②

豊かなまちづくり
モデルの創造

重点戦略③

新たな貢献領域
での事業展開

戦略実行・
実現を担う人づくり

グループ一体で
戦略を推進する
基盤づくり

2030年長期ビジョン

安全・安心なモビリティサービスを軸に地域の特性を活かしたまちづくりを通じて九州の持続的な発展に貢献する

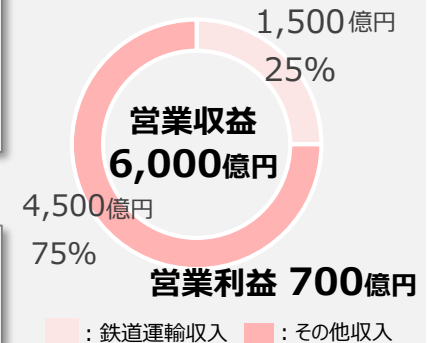
実現方針①

価値観の変化を捉えた
“豊かな生活を実現する”
まちづくり

実現方針②

九州の持続的な発展に
貢献する領域の拡大

2030年度(数値目標)



数値目標等 (2024年度)

【連結】

営業収益 **4,400** 億円 営業利益 **570** 億円

EBITDA **940** 億円 ROE [参考] **8%以上**

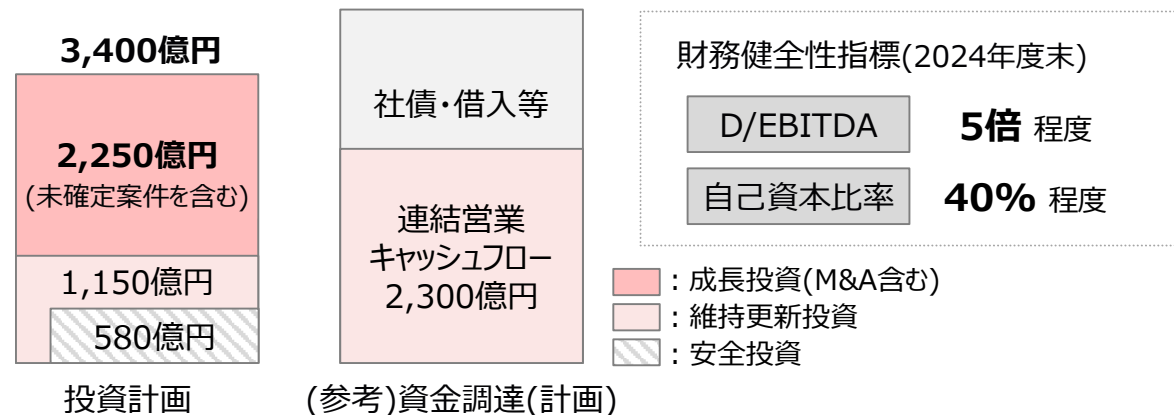
【セグメント別*】

(単位：億円)

セグメント名	営業収益	営業利益
運輸サービス	1,630	170
不動産・ホテル	1,330	270
流通・外食	650	30
建設	950	70
ビジネスサービス	800	40

*セグメント毎の営業収益・営業利益はセグメント間取引消去前

【投資計画 (2022-2024累計)】



株主還元方針

株主還元は長期安定的に行っていくことが重要と考え、2024年度までの間は、1株あたり配当金**93円**を下限として、**連結配当性向35%**を目安に配当を行い、状況に応じて機動的に自己株式取得を行う。

重点戦略① 事業構造改革の完遂 | 鉄道事業（未来鉄道プロジェクト）



- 作業の自動化による業務効率化やシームレスな移動サービスを推進

国内初となるGOA2.5自動運転

- GOA2.5自動運転※を2024年3月より香椎線で開始予定
※列車前頭に自動運転乗務員（運転士以外の係員・社内資格）が乗務し、緊急停止操作等を行う運行形態
※GOA = Grade of Automation
- 香椎線の西戸崎駅～宇美駅間（25.4km）で導入予定であり、同区間を運行する全列車が自動運転列車（運転士乗務含む）となる予定

【導入効果（想定）】

- 運転士のなり手不足解消
- 乗務員養成コストの削減



QRコードを利用したチケットレスサービス

- 九州内完結のネット限定きっぷのうち、博多駅を発着する主な特急列車および西九州新幹線の運行区間の商品を対象
- 2024年秋よりサービス開始予定（2025年度以降、サービス対象拡大を予定）



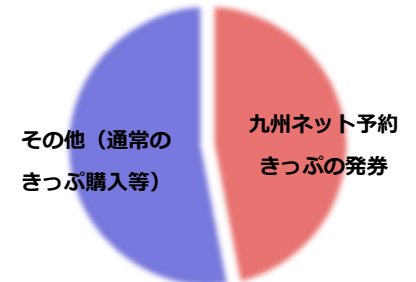
【導入効果（想定）】

- お客さまの利便性向上
- 駅窓口や指定席券売機の混雑緩和（博多駅の場合、指定席券売機利用者数 ▲約25~30%）
※サービス開始時は、ネット限定きっぷの約半数がチケットレスサービスの対象となる予定

サービスイメージ



博多駅指定席券売機の
利用目的



※2023年7月調査

重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 西九州エリアのまちづくり

- 西九州エリアのまちづくりの核となる「JR長崎駅ビル」が開業、鉄道のご利用増にも貢献
- 西九州新幹線のご利用は引き続き九州新幹線の回復トレンドを超過

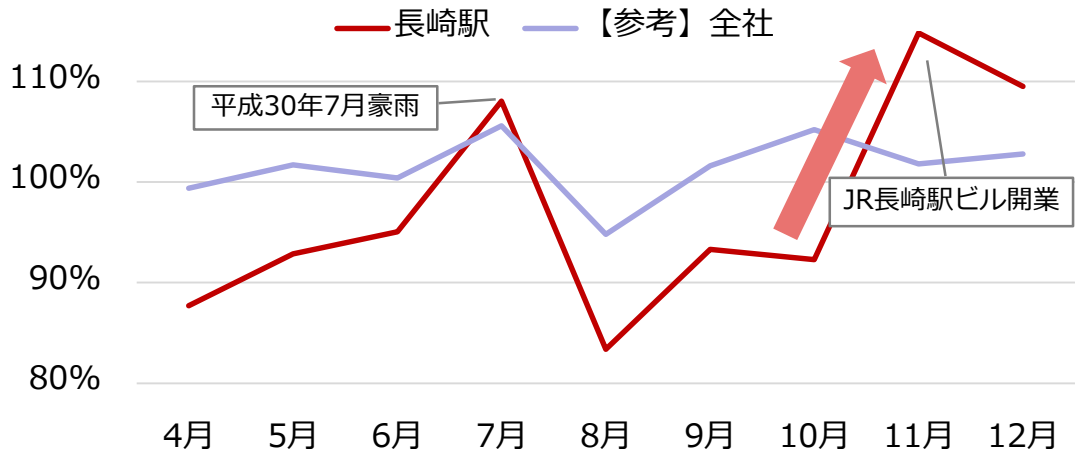
JR長崎駅ビルの開業



【増床部分概要】

- 開業日：2023年11月10日
※長崎マリオットホテルは2024年1月16日
- 延床面積：約102,000㎡
 - 商業 約41,000㎡
 - オフィス 約9,000㎡
 - ホテル 約20,000㎡、207室
 - 駐車場 900台

長崎駅近距離収入の19.3期比[※]



※ 新幹線の収入は距離に関わらず中長距離収入として集約されるため、西九州新幹線開業後の長崎駅の近距離収入は、19.3期比で低い傾向にある

開業1か月間 ご来館者数

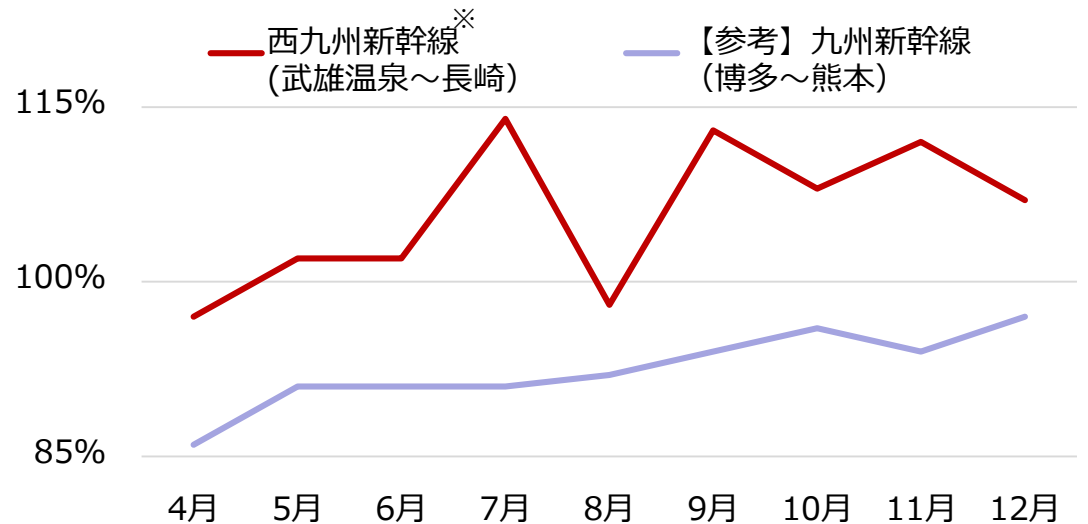
約256万人
対前年234%

オフィス リーシング状況

約9割内定



西九州新幹線ご利用者数の19.3期比[※]



※ 諫早～長崎間の特急「かもめ」との比較

重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 福岡エリアのまちづくり

- 福岡エリアにおいては、住宅型有料老人ホームや複合体験型アウトドア施設の開発・運営を行うなど、幅広い領域にてまちづくりを推進

箕子小学校跡地活用事業（りすのこスクエア）



スキーム

福岡市

土地全体の賃貸

桜十字グループ

(桜十字メディカルフォレストの開発・運営)

土地の一部転貸

JR九州グループ

(SJR ザ・クラス大手門の開発・運営)

【SJRザ・クラス大手門】

施設類型：住宅型有料老人ホーム
 入居開始：2024年1月
 構造：地上13階
 総居室数：168室



油山市民の森等リニューアル事業



スキーム

福岡市

土地・建物一部賃貸
 行政施設の指定管理

JR九州グループ

・行政施設の指定管理事業
 ・民間活用施設の開発・運営
 (基本的にFC含め事業主体、一部テナント)

第1期

【2023年春開業】
 ストア、レストラン、
 キャンプフィールド、
 カフェ、BBQ、シェア農園

第2期

【2023年秋～冬開業】 **New**
 シェアオフィス
 フォレストアドベンチャー、
 ポタニカルカフェ

第3期

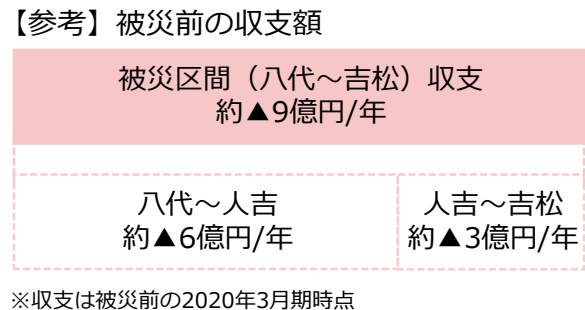
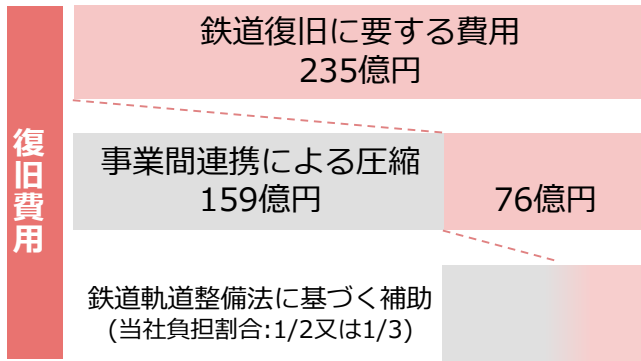
【2024年春開業予定】
 グランピング施設

令和2年7月豪雨により被災した肥薩線について

- 肥薩線の復旧方針については、国土交通省・熊本県が開催する「JR肥薩線検討会議」に参画し、復旧費と維持費、復旧後の利用予測など、持続可能性も含めた様々な観点から慎重に検討を継続

JR肥薩線検討会議

- 設置目的：大雨で被災した肥薩線について、河川や道路などの公共事業との連携の可能性も含めた復旧方法及び復旧後の肥薩線の在り方などについて検討すること
- 構成員：国土交通省鉄道局、熊本県、九州運輸局、九州地方整備局、JR九州
- 主な議論の論点
 - ① 復旧方法：未定（熊本県は上下分離方式を前提とした鉄道による復旧を希望）
 - ② 復旧費用：総額235億円



※収支は被災前の2020年3月期時点

※記載の復旧額は一定の条件の下で算出しており状況により変動する

熊本県によるJR肥薩線復興方針（案）（2023年12月）

- JR肥薩線八代～人吉間について、鉄道により復旧を目指すとした場合の基本方針
- 肥薩線を重要な観光路線と位置づけ、観光振興を軸とした利活用策について整理されたもの

不通区間	肥薩線 八代～吉松
距離	86.8 km
主な被害	橋梁流出、土砂・盛土流入等

将来の見通しに関する記述について

本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、新型コロナウイルス感染症の状況、人々の価値観やライフスタイルの変化、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

弊社IR関連資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR九州ホームページ

<https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/>